第46回日本少年野球ジュニアホークス大会規定

1. チームの登録選手 中学生レギュラーの部は11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録証（チーム責任者、監督、コーチ）および、審査証（選手）を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
5. 組み合わせの若番号が一塁側のベンチ、後番号が三塁側のベンチに入る。
チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督（背番号60）、コーチ（背番号50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
7. 試合開始時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球回数記録副表2部を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。 *2年生ジュニアの部、1年生EXの部は道具審査のみとする
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。

10. 試合方式など

・レギュラー / 2年生ジュニアの部

- (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 7回終了後、同点の場合（決勝戦は延長8回）、あるいは試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、1イニングのみタイブレイク方式を実施する。それでも同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
* 決勝戦のみ勝敗が決まるまでタイブレイク方式を実施する
（競技に関する特別規則「タイブレイク実施細則」参照）

・1年生EXの部

- (1) 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 6回終了後、同点の場合（決勝戦は延長7回）、あるいは試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、1イニングのみタイブレイク方式を実施する。それでも同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
* 決勝戦のみ勝敗が決まるまでタイブレイク方式を実施する
（競技に関する特別規則「タイブレイク実施細則」参照）

11. ・レギュラー / 2年生ジュニアの部の試合での登板は、以下のとおり制限する。

- (1) 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし4連投（連続する4日間）は禁止する。
- (2) 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- (3) (1)~(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- (4) 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
- (5) ポークは投球数としない。
- (6) 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- (7) レギュラー・2年生ジュニアの部の試合で、1年生の投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。